平成１２年度特別研究費・研究成果報告書

区　　分	平成１２年度デザイン学長特別研究費
研 究 名	地域のデザイン振興方策に関する研究（その１）
実施体制	黒田宏治（デザイン学部生産造形学科）ほか２名（申請時）

静岡県デザインセンターの活動展開

●黒田宏治（デザイン学部生産造形学科）

●静岡文化芸術大学研究紀要第２巻（2002 年３月予定）

はじめに

わが国のデザイン振興行政は、第二次世界大戦後の経済復興に取り組まれるなか、国主導の輸出向け雑貨や工芸品のデザイン改善、デザイン盗用の防止にはじまるが、80 年代には円高が急速に進行するなかで、国の産業政策の方向は輸出振興から内需拡大へと転換され、各地域においては産業構造転換に向けた新たな産業基盤の形成が求められるようになり、地域における広範なデザイン活動を促進するために、総合的なデザイン振興の拠点となるデザインセンター設立に向けての検討が、各地域で相前後して始まった。

静岡県においても、デザイン振興については久しく県工業試験場の工芸部門が主要な役割を担ってきたが、デザインイヤーの翌年である 90 年４月、静岡市内中心部に展示スペース、CAD システム、ライブラリーなどを備えた静岡県デザインセンターが設置されるに至る。以来、県内の企業や生活者、デザイナーなどを対象に、普及啓発や人材育成、情報提供などを目的としたデザイン振興諸事業は、センターが中心となり展開されてきた。

同センターは 2001 年３月に廃止されたが、その間は静岡県におけるデザイン振興の中核的役割を担ってきた。本稿では、11 年間の事業展開の概略整理および考察を行った。

デザインセンターの概要

静岡県デザインセンター事業化の出発点は、80 年代前半にさかのぼる。エレクトロニクス、新素材などの先端技術産業が脚光を浴びるなか、静岡県においては先端技術産業育成に向けた施策展開が積極的に図られた一方で 83 年に地場産業の生産技術高度化への取り組みにも着手された。地場産業デザイン技術高度化研究委員会が 84 年７月に設置され、調査検討がスタートした。県内企業デザイン実態調査等も踏まえ、84 年 12 月には高度化促進事業の内容、デザイン振興体制の確立などの提言をとりまとめ、静岡県に提出した。

静岡県では、同提言を踏まえ、翌 85 年度には静岡県事業としてデザインアドバイザー派遣制度、県内デザイナー情報を集めたデザイナーバンクをスタートし、県試験場ではデザインライブラリー整備に着手した。また、86 年４月には、県内の地場産業団体、企業、デザイナーの参加する全県的広がりを有する静岡県デザイン振興会が発足し、情報誌発行、デザインセミナー開催などの事業の順次具体化が図られるとともに、振興会の場を通してデザインセンター具体化への広範な議論も展開されてきた。

そして 90 年４月、旧静岡県中小企業会館跡地に新たに建設された静岡県産業経済会館内に、静岡県デザインセンターが開設された。センター長には県工業試験場意匠課勤務の経験を有するデザイナー、鴨志田厚子が招聘され、以下専任職員４名の体制でスタートした。県内産業におけるデザイン技術の高度化、デザイン意識の啓発を主たる目的として事業化が図られた静岡県デザインセンターでは、専有の展示スペースを活用するかたちで、普及啓発を目指した事業、なかでも展示プロモーションに重きが置かれてきた。

全国各地域に様々なタイプの地域デザイン拠点が存在するが、静岡県デザインセンターは、地場産業振興の一環としての事業化であり、また独自に展示スペースを有するという施設面での特色も備えていることから、工業アプローチのファシリティ型とコンサル・コ

ーディネート型を併せ持ったタイプであると考えることができる。

デザイン振興事業の展開

開設初年度より、自主企画である生活提案展示をコアに、県内産業紹介展示、県内デザイナー作品展示、全国巡回デザイン展示、他地域との交流展示などが、一年間を通じて様々に実施されてきた。生活提案展示では、県内各所を取材し、それを基にして、時代のキーワードをテーマに、若手デザイナーの感性を生かした展示を行うとの位置づけでスタートし、地場産業の可能性探求、あるいはリサイクル、防災、バリアフリーといった社会性あるテーマに則ったデザイン展示が繰り広げられてきた。

展示プロモーションの中心的事業にセンター独自企画による生活提案展示のシリーズがあり、その内容がセンターのテーマ性に深く関連すると思われる。２年目までは、「つつむ」、「美と菓子の器」などのテーマで、複数の業種製品の組み合わせによるライフスタイル提案が行われるなど、主に県内地場産業の再構成に資する内容であった。それに対し３年目以降は、リサイクル、防災、福祉、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど、主に時代テーマを掲げ、最新情報、県内産業紹介、オリジナル提案などが展示されてきた。

なかでも、福祉、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどのキーワードで括られるテーマ領域に関しては、静岡県デザインセンターにおいて 92 年度より一貫して取り組まれてきた。94 年度には「福祉」、95 年度には「バリアフリーと生活環境」が生活提案展示の年間テーマに掲げられていた。共用品・共用サービスの産業化をリードした通商産業省の福祉用具産業懇談会の設置が 96 年、Gマーク（グッドデザイン商品選定事業）にユニバーサルデザイン賞が設けられたのが 97 年である。それらに一歩先んじるかたちで静岡県デザインセンターにて取り組みがなされていたことは注目しておいてよい。

また、静岡県では 99 年４月、企画部にユニバーサルデザイン室が設置され、全国自治体のなかで当該分野に関して先頭をきるように諸施策が展開されているが、それらは静岡県デザインセンターにおけるユニバーサルデザイン関連の一連の取り組みに連なるものであるといってよい。その意味で、静岡県においては、静岡県デザインセンターは次世代政策テーマの発掘、そして基礎固めに中心的役割を果たしてきたといえる。

おわりに

静岡県デザインセンターが廃止されて半年余りが経過した。センターにて展開されてきた諸事業は、県地域産業室、静岡工業技術センター、財団法人しずおか産業創造機構において機能毎にそれぞれ引き継がれているが、専用展示スペースの喪失により展示関係事業の連続的開催が途絶えたこともあり、縮小された感は否めない。県内産業の活性化、再構築に向けデザインの新たな役割への期待も高まりなか、デザイン振興事業の現状には懸念されるところである。

そうしたなか、県地域産業室、静岡工業技術センター、浜松工業技術センター、財団法事しずおか産業創造機構、静岡県デザイン振興会、静岡文化芸術大学デザイン学部の関係者の間で、新たなネットワーク型のデザイン振興体制の構築に向けての検討が始まっている。それぞれ設置の趣旨・形態等の異なる組織にまたがっての検討であり、具体的な行動着手までにはしばし時間を要するものと思われるが、今後の展開が待たれるところである。